

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成27年11月12日 (2015.11.12)

【公開番号】特開2014-91430(P2014-91430A)

【公開日】平成26年5月19日 (2014.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2014-026

【出願番号】特願2012-243390(P2012-243390)

【国際特許分類】

B 6 1 F 1/10 (2006.01)

【F I】

B 6 1 F 1/10

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月28日 (2015.9.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

台枠と、前記台枠に設けられたエネルギー吸収体と、を備え、

前記台枠は、前記台枠の車両長手方向の端部にて車幅方向に延びる第 1 端梁と、前記第 1 端梁よりも車両長手方向の内方にて車幅方向に延びる第 2 端梁と、前記第 1 端梁と前記第 2 端梁とを接続するスライディング中梁と、台車に取り付けられる枕梁と、を有し、

前記スライディング中梁は、前記第 1 端梁側に接続される第 1 梁部材と、前記第 2 端梁側に接続される第 2 梁部材と、前記第 1 梁部材を前記第 2 梁部材に結合する結合部材と、を有し、前記結合部材は、所定荷重を超える衝撃荷重が作用したときに破断して、前記第 1 梁部材を前記第 2 梁部材に対してスライド可能にし、

前記エネルギー吸収体は、前記第 1 端梁から第 2 端梁に伝達する衝撃荷重によるエネルギーを吸収するように前記台枠に設けられ、

前記スライディング中梁及び前記エネルギー吸収体は、前記第 1 端梁と前記第 2 端梁との間の領域に配置されている、鉄道車両。

【請求項 2】

車体の車両長手方向の端部に設けられる妻構体を更に備え、

前記台枠は、車幅方向両側にて車両長手方向に延びる一对の側梁を更に有し、

前記第 1 端梁は、前記一对の側梁の長手方向の端部から車両長手方向の外方に離れて配置され、かつ、前記妻構体の下端部が接続され、

前記第 2 端梁は、前記一对の側梁の長手方向の端部同士を車幅方向に連結している、請求項 1 に記載の鉄道車両。

【請求項 3】

隣接する鉄道車両同士を連結するための連結器を更に備え、

前記連結器は、前記第 2 端梁に取り付けられている、請求項 2 に記載の鉄道車両。

【請求項 4】

前記スライディング中梁の前記第 1 端梁側の端部における側壁の少なくとも一方の面は、前記妻構体の妻柱の車両長手方向に延びる面と略同一平面上にある、請求項 2 又は 3 に記載の鉄道車両。

【請求項 5】

前記台枠は、前記枕梁に対して前記第 2 端梁をスライド不能に接続する非スライディン

グ中梁を更に有し、

前記スライディング中梁の前記第 2 端梁側の端部における側壁の少なくとも一方の面は、前記非スライディング中梁の前記第 2 端梁側における側壁の面と略同一平面上にある、請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の鉄道車両。

【請求項 6】

前記非スライディング中梁は、車幅方向において一対設けられており、

前記一対の非スライディング中梁の車幅方向の間隔が前記第 2 端梁から前記枕梁に向けて広がるように、前記非スライディング中梁が平面視で車両長手方向に対して斜めに配置されている、請求項 5 に記載の鉄道車両。

【請求項 7】

前記エネルギー吸収体は、前記第 1 端梁側に接続される第 1 パイプと、前記第 2 端梁側に接続される第 2 パイプと、を有し、前記第 1 パイプ及び前記第 2 パイプのうち何れか一方のパイプの拡径した端部に何れか他方のパイプの端部が嵌合しており、

前記スライディング中梁は、車幅方向に一対設けられており、前記エネルギー吸収体は、前記一対のスライディング中梁の間に配置されている、請求項 1 乃至 6 のいずれかに記載の鉄道車両。